

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177500170		
法人名	株式会社 ハヤシ環境		
事業所名	グループホームカルミア I		
所在地	滝川市東町7丁目219番地6		
自己評価作成日	令和元年7月30日	評価結果市町村受理日	令和元年9月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosvoCd=0177500170-00&ServiceCd=320&Type=search](http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=0177500170-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和元年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、食事メニューを決めないでスタッフそれぞれが冷蔵庫を開けて何を作るか考え調理しております。買い物については、ホームより近距離に大型スーパーがあり週2回程食材の買い物に出掛け、一般家庭的な食材を購入し、各スタッフがそれぞれオリジナルの料理を入居者様へ提供しております。そのため入居者様の要望にも柔軟に対応でき、暑い日には冷やしラーメンやそうめんといった季節を感じさせる食事を提供しスタッフそれぞれの味を楽しんでいただいております。又、当ホームは採光性の良いホールがあり窓からは田園風景や山々が見られ、四季折々の情景が入居者様の目を癒してくれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スーパーや学校にも近く、広い敷地とゆったりとした建物が特徴的な2ユニットの事業所です。中央にあるホールからは遠くの山々や田園、東屋や菜園を臨め、開放感と自然の恵みを実感できる住環境です。職員は明るく、日々の生活に寄り添うケアを実践し、思いの把握に努めています。利用者一人ひとりと対話をする事を心掛け、食事や外出についてもその時々々の希望を聞き取っています。美味しく豊富なメニューで食への関心を引出しており、買い物や散歩に出掛け、滝川神社祭や花見、道の駅巡りを行っています。ケアプランは、心身の状態やニーズを明らかにした具体的な支援計画を作成しています。有資格者の職員を揃え、離職率が低い事も特筆され、さらにサービスの質向上や全職員が同レベルでのケアを提供できるよう、内・外部研修に力を入れています。百歳体操の実施や、子供太鼓や歌謡、日舞などボランティアの協力を得たり、今年度は初の納涼祭に取り組み、次回は住民も招きたいと事業所機能の還元と地域と共にある運営姿勢を実践しています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝夜勤者から日勤者への申し送りの終了後、出席者でケア理念を読み上げ復唱している。	運営理念の他、4項目のケア理念を掲げ、サービスの基本姿勢として毎日復唱しています。日常のケア場面や会議、研修を通し、理念の共有と実践を確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。地域の慰問ボランティア等を受け入れ交流している。	今年度は、恒例の野外焼肉会を事業所内の納涼祭に変えて実施し、次回は住民を招く事ができるよう体勢作りをしています。神社祭に出掛けたり、定期や随時の地域ボランティアの来訪者も積極的に受け入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所職員がキャラバンメイト養成研修を受講し、滝川市の要請により認知症サポーター養成講座を行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告・入居者状況を報告し意見を求め、実践に活かせる事は日常生活支援計画に盛り込んでいる。	運営推進会議は定期的を開催しています。運営や利用者状況など資料や写真等を提示し、分りやすく報告しています。利用者の入居関連や地域交流の在り方などを話し合い、多様な意見を得たいと取り組んでいます。	家族の参加が滞っている状況です。議事録を全家族に配布し、さらに会議の理解を促しながら、参加に繋がる取組みを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日々の連絡はメールで対応しているが、以外のことについては直接電話もしくは直接訪問し協議している。	行政とは施設長が中心に対応し、直接担当課に出向き協力関係を築いています。また、滝川市ネットワーク会議に参加し、法制度をはじめ福祉用具などについて最新情報の収集を行い、利用者サービスに活かしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の適正化のための指針を整備し定期的(年2回)身体拘束適正についての職員研修を行っている。又、拘束が必要と思われる入居者については指針に沿って行っている。	身体拘束適正化に向け指針を策定しています。委員会は毎月開催し、運営推進会議で報告をしています。指針内容や事例検討を通じた研修を行い、気になる言葉はその場で気付きを促し、会議内で注意喚起を図っています。ペット柵の使用などは、家族の同意の下、1か月毎の定期で検証しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修会に職員を受講させ内部研修を行った。又、入居者の身体に痣や日々の生活の中に怯え等の変化ないかを観察し身過ごすことのないよう職員に周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はないが学ぶ機会があれば参加したい。成年後見制度を利用している利用者も入居しているの程度職員は理解していると思われる。又、支援者からの相談等があれば柔軟に対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は、重要事項説明書等を大まかに家族に説明し、一度家族に預け確認していただき捺印して頂いている。尚、問い合わせにも柔軟に対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時・もしくはケアプランの説明時に都度意見を聞いて改善が必要と判断した場合は即座に対応している。又、利用者の意見については必要と判断した場合には即座に対応している。	普段から家族との会話重視に努めています。来訪時や電話連絡、ケアプラン見直しなどで意見等を聞き取り、できる事は速やかに対応し、ケアプラン内容の反映につなげています。事業所便りや写真掲載の通信で、生活の様子を伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の責任者による打合せ会議には会社役員・管理者も参加し協議している。又、会社役員が年に一度個人面談を行っている。	ユニット会議で意見交換をし、業務改善やシフト調整に活かしています。日常的に意思疎通を図り、年1回の個人面談、月例の法人役員を交えた責任者会議でも事業所全体の状況を協議し、働きやすい環境作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善可加算のキャリアパス要件・職場環境要件を満たしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内外の研修計画を作成し、経験年数や取得資格に応じた研修に参加させ、研修に関わる費用については全額会社が負担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域で認知症を支える会といった団体がありグループホームスタッフ意見交換会に参加したり他グループホーム見学会等があり他のホーム職員を受け入れたりこちらの職員も他ホームに受け入れてもらい交流を図っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面談を行い心配事や不安なことを聞いてサービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学に来られ入居を勧めて行く段階で家族の要望や訴えを真摯に受け止め家族の想いを共感している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のニーズを聞いて、双方が満足できる介護サービス計画を立てるよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゴミ箱のゴミを袋に入れてくれたり、廊下の掃き掃除を一緒に行ったり、手芸等を教わりながら一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の誕生会やホームの行事のある時は家族にも参加していただき共にお祝いしている。家族の都合で受診対応できない時は家族の代わりにホームで対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用されていた床屋や美容室などが利用できるよう本人の要望を聞いて家族に対応して頂いている。	殆どが地元出身の利用者で、長年の友人が訪ねてきたり、祭り見物や通い慣れた美容室に行くなど、家族とも協力して馴染みの人や場、今までの習慣ができる限り続けられるよう個別に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	週一回片方のユニットに入居者が集合し、当日の勤務職員を含めて午後14時30分から茶話会を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームで生活していた時の写真をファイルして届けたり、家族依頼の電話に対応したりしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期のスタッフ会議により各スタッフから入居者の情報を聞いて検討まとめている。又、家族や友人からも情報を入手する事もある。	日常での聞き取りの他、意識的に1対1の場面を作り、思いや本音の自由な表現を支えています。言葉で伝えられない場合も、家族の情報や職員の意見を出し合って本意を推察し、検討しています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・介護支援専門員・医療関係者からの聴取又は情報提供等で把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、利用者の生活状況をアセスメントシートに記入し各スタッフで共有し把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に情報を提供したり聞いたり、担当だったケアマネージャへの相談し意見をもらったり、職員の気付きの情報をまとめを検討し作成している。	6カ月の定期見直しや状態変化でのケアプラン作成は、全職員の視点を通しモニタリング、アセスメントを行い、個別のニーズを抽出しています。プランの内容は本人、家族にも分かりやすく記載され、毎日の記録でプランの実践を確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシートに利用者それぞれの一日の生活状況を記入。計画見直しの時期には計画見直しシートに個々の状態を記入してもらいミーティングの際に個別に検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の受診時の車椅子者の送迎・生活用品の購入支援・突発時の家族に変わる受診対応支援・家族の要望に沿った神仏行事の同行参加支援などを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアによる受診の付き添いや、行事の際に地域ボランティアの歌や踊りの慰問等により日々の暮らしを楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は各利用者の担当職員が経過報告書に日々の生活状況や変化・特変事項などをまとめ家族に渡しかかりつけ医に確認してもらい助言・指導を頂いている。	かかりつけ医の選択は、利用者、家族の希望を第一にしています。通院は家族対応を基本に有料ボランティアも活用し、健康状況を文書により医師や関係者間で共有しています。日常は基より緊急時等も、管理者である看護師から直ぐに指示を得られる体制です。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の身体状況に特変があれば昼夜を問わずホーム在中の正看護師に連絡報告し指示をもらい対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の生活状況や支援内容に関する情報を医療機関へ提供し、医療機関からの問い合わせにも即座に対応し医療機関との情報を共有しながら早期の退院に向け進めている。病院主催の「入退院時の医療との連携」についての研修会に参加した。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関わる指針を家族に説明し、重度化に伴う同意書に署名捺印していただき一部を家族へ渡している。	重度化に関しては、指針を基に契約時や状態変化に即して話し合っています。往診医の確保が難しい状況で看取り支援は困難ですが、希望に添って、事業所でできる限りのケアを行っています。新人職員を優先して研修会に派遣し、チームとして技術の向上や均一化に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域で開催されている普通救命講習に交代で参加させている。又、最近では地元介護サービス協議会主催による「医療知識と緊急時の対応」研修に職員を参加させた。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害に関わる図上を用いての避難訓練を消防職員を招いて他グループホームと合同で行った。緊急時における相互施設間での支援協定書を他グループホームと交わしている。	年2回昼・夜想定避難訓練を実施し、消防署の指導でスモークや水消火器を使用した実践的訓練を行っています。災害時における対応マニュアルの共有や図上訓練の実施、地域同業者と緊急時相互支援協定を結ぶなど、非常災害に備えた対応に取り組んでいます。	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「入居者の尊厳を守る適切なケア」と題した研修に職員を参加させ、尊厳をテーマとした内部研修を行い日々の入居者との関わりについて事例を元に意見を出し合いスタッフそれぞれが日々のケアを見つめ直した。	職員は、親密な関係での馴れ合いや指示的対応などをふり返り、外部・内部研修で、利用者の尊厳や接遇を学んでいます。利用者の希望に添い、入浴時の同性介助の対応を行い、選挙の際の送迎を支援しています。	事業所では、定期的に利用者の尊厳を保つケアサービスの確認の意向を示しており、その取り組みに期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者対職員の日常の会話の中で本人の興味のある事・やりたい事などを洞察し話を傾聴して入居者が話をしやすい雰囲気の中で思いを伝えられるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者はそれぞれ居室・居間・ホールなどで自由に過ごしている。退屈そうにしている入居者についてはスタッフが声掛けし畑の収穫や近所のスーパーにおやつを買いに行くなどしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝・出かける時にどの服に着替えるかは利用者様に選んで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話の中で、何が食べたいか聞いたり、テレビや新聞のチラシと一緒に見て関心を引き料理を提供している。	栄養バランスにも配慮された献立は、利用者の好みやその時の食べたい物、収穫野菜や季節感を取り入れています。各職員の持ち味を活かし、バラエティーに富む料理が食卓を賑わし、皆で食事する和やかな雰囲気です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や栄養管理をする上で、入居者個別に主食の量をg単位で調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者それぞれの能力に応じて見守り支援を行っている。できない方についてはスポンジや口腔ティッシュを使い義歯の取り外し洗浄まで行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期声掛け誘導を行ったり本人の承諾を得て居室にポータブルトイレを設置し使用状況を確認している。	排泄チェック表により、個別の状況に応じたトイレ排泄を支援しています。失敗時の羞恥心やプライドに配慮し、おむつやポータブルトイレの使用検討も細かく行っています。運動や食事、医師に相談するなどで排便対策を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を含んだ野菜果物や牛乳・にヨーグルトを提供したり、排便の無い方については職員が下剤の量等を調整しながら管理している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回程度の入浴を楽しんで頂いているが、本人の体調や気分のすぐれない時は無理をしないで、本人の希望のある時に曜日に関係なく応じて見守り支援を行っている。	利用者は週2～3回程度入浴しています。本人の希望や状況により、シャワーや清拭を取り入れ、拒否がある場合も気持ちに寄り添い、無理強いせずに対応を工夫しています。入浴時は利用者と会話が弾む大切な時間となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室には温湿時計を備えスタッフが管理している。ホールや居間ソファで休息されている方についてはスタッフがタオルケット等掛けてあげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の服薬の種類・効能をファイル管理している。又、服用については職員同士で確認し合い入居者本人にも名前・日付・朝昼夕を確認してから服用して頂いている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭菜園について入居者からアドバイスしてもらったり、得意の handmade を披露する場をもうけたり、折り紙・ぬり絵等を購入し個別に好きなことをしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花のイベントの観賞や季節の花の見学を促し外出を行っている。又、家族の方も床屋・美容室・自宅・温泉などに連れて行ってもらっている。中庭に出たりホームの近くを散歩したりしている。	畑作業をしたり、近隣の散歩や買い物に行っています。ホールからも中庭に出やすい造りで利用者が気軽に外気に触れられるようになっています。数台の車両を使用して毎月のように桜や紅葉狩り、らんフェスタや道の駅巡りに出掛けています。不参加の人にも土産の菓子を渡し、次の外出を誘っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を所持している利用者は外出の時に買い物をされている。お金の受け渡しについてはスタッフが見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な方は居室に電話を付けている。本人からの希望がある場合は、状況によっては事前に家族に連絡し了解を得てからスタッフが取り次ぎを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間については毎日清掃し触れる箇所については消毒を行っている。又、季節感を感じて頂く為にひな人形・クリスマスツリー等を飾っている。ホールからは、山や田園風景の色を見ながら季節の移り変わりを感じてもらっている。	広く開放的な造りで、ベランダから山々や田園の風景を堪能できます。畳スペースや家庭仕様様の調度類などが設置されています。利用者の習字の秀作や季節飾り、カレンダー等も掲示し、居心地良い環境作りをしています。清掃や清潔保持に留意しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間・ホールには複数のソファを置いてそれぞれが窓から外を眺めたり休息したりしている。又、食事時の座る場所も入居者同士の関係も考慮し新しい入居者が加わり不都合があれば定期的に変えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の本人の持ち物は本人の見慣れた使い慣れたものを持ちこんで頂くようご家族にお願いしている。(テーブル・時計・衣装箱・写真・衣類・趣味の道具)等。	ベッドや冷蔵庫、クローゼットを備えています。自由に整容できる洗面台も設置され、椅子や趣味の物、鉢物などが持ち込まれています。清潔を保ち、車椅子でもスムーズに移動できるよう段差解消などに配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室出入口には表札や名札を掲げ部屋を間違えないようにしたり、廊下・トイレ・浴室には手すりを設け安全に配慮している。		